

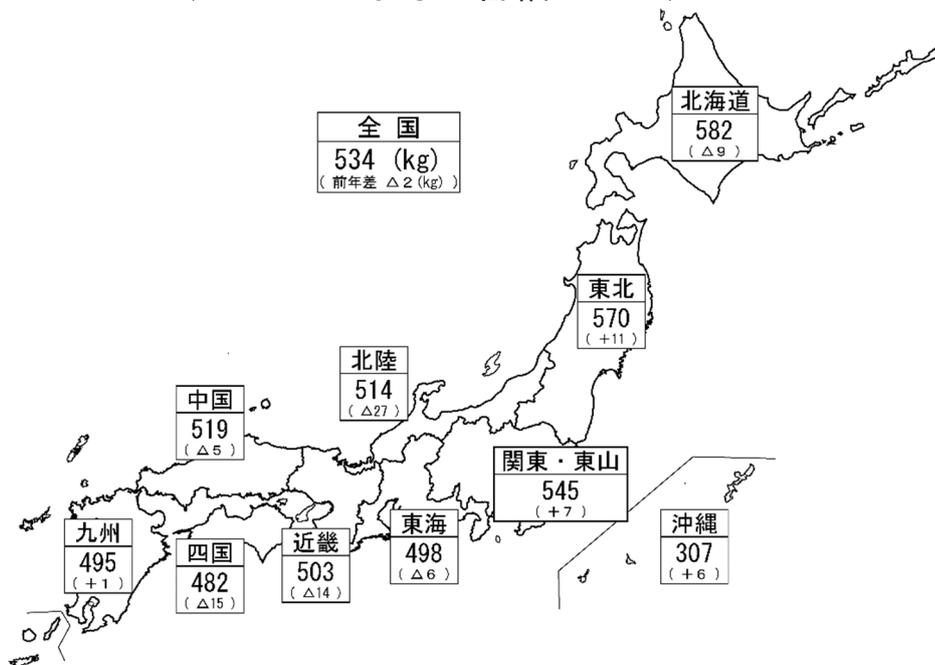
## 作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

－ 全国の10a当たり予想収量は534kgの見込み －

### 【調査結果の概要】

- 1 令和5年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は153万1,000ha（前年産に比べ1万4,000ha減少）と見込まれる。うち主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）と見込まれる。
- 2 9月25日現在における全国の10a当たり予想収量は534kgと見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は100と見込まれる。  
これは、田植期以降、全国的に5月下旬から6月上旬にかけて日照不足で推移したものの、その後おおむね高温、多照で推移し天候に恵まれた地域がある一方で、6月から7月にかけての梅雨前線等による大雨や断続的な日照不足、7月から8月にかけての記録的な高温や少雨の影響が見込まれる地域があるためである。
- 3 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は662万4,000t（前年産に比べ7万7,000t減少）と見込まれる。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量（9月25日現在）  
（1.70mmのふるい目幅ベース）



- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 予想収穫量調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終わっていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

◎ 累年データ

水稻の年次別推移（全国）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成15年産	1,670,000	1,660,000	469	7,779,000	…	…	90
16	1,704,000	1,697,000	514	8,721,000	…	…	98
17	1,709,000	1,702,000	532	9,062,000	…	…	101
18	1,692,000	1,684,000	507	8,546,000	…	…	96
19	1,678,000	1,669,000	522	8,705,000	…	…	99
20	1,637,000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1,637,000	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	98
22	1,657,000	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,632,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,641,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,647,000	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,639,000	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,623,000	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,611,000	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103
29	1,600,000	1,465,000	534	7,822,000	1,370,000	7,306,000	100
30	1,592,000	1,470,000	529	7,780,000	1,386,000	7,327,000	98
令和元	1,584,000	1,469,000	528	7,762,000	1,379,000	7,261,000	99
2	1,575,000	1,462,000	531	7,763,000	1,366,000	7,226,000	99
3	1,564,000	1,403,000	539	7,563,000	1,303,000	7,007,000	101
4	1,545,000	1,355,000	536	7,269,000	1,251,000	6,701,000	100
5 (概数值)	1,531,000	…	534	…	1,242,000	6,624,000	100

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量（令和5年産は予想）である。

3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

4 作況指数は、10 a 当たり年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までは、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

5 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

6 「…」は、未発表であることを示している。

## 【調査結果】

1 令和5年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は153万1,000ha（前年産に比べ1万4,000ha減少）と見込まれる。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）と見込まれる。

2 9月25日現在における水稻の地域別の10a当たり予想収量は、以下のとおりである。

北海道においては、田植期以降、天候に恵まれたことから、全もみ数が平年以上に確保されたことに加え、登熟も平年を上回ることが見込まれることから、582kg（平年に比べ+21kg）と見込まれる。

東北、関東・東山、中国及び四国においては、田植期以降、5月下旬から6月上旬にかけての日照不足の影響により、穂数は少なかったものの、その後の天候におおむね恵まれたことから東北は570kg（平年に比べ+2kg）、関東・東山は545kg（同+6kg）、中国は519kg（同+1kg）、四国は482kg（同±0kg）と見込まれる。

北陸、東海、近畿及び九州は、田植期以降の5月下旬から6月上旬にかけての日照不足の影響により、穂数が少なかったことに加え、6月から7月にかけての梅雨前線等による大雨や断続的な日照不足、7月から8月にかけての記録的な高温や少雨の影響が見込まれることから、北陸は514kg（平年に比べ△26kg）、東海は498kg（同△4kg）、近畿は503kg（同△5kg）、九州は495kg（同△6kg）と見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は534kg（平年に比べ△2kg）と見込まれる。

3 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は662万4,000t（前年産に比べ7万7,000t減少）と見込まれる。

表 令和5年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量  
（全国農業地域別）

全国農業地域	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量			主食用 作付面積 ②	予想収穫量 （主食用） ③=①×②
	実数	前年産との比較		実数 ①	前年産との比較			
		対差	対比		対差	対差		
	ha	ha	%	kg	kg	kg	ha	t
全 国	1,531,000	△ 14,000	99	534	△ 2	△ 2	1,242,000	6,624,000
北 海 道	101,700	200	100	582	21	△ 9	82,200	478,400
東 北	403,200	△ 2,600	99	570	2	11	309,200	1,761,000
北 陸	208,300	△ 1,600	99	514	△ 26	△ 27	174,000	895,000
関 東・東 山	289,500	△ 2,100	99	545	6	7	227,500	1,242,000
東 海	96,900	△ 1,100	99	498	△ 4	△ 6	84,300	419,600
近 畿	99,300	△ 1,600	98	503	△ 5	△ 14	91,200	457,900
中 国	101,700	△ 1,800	98	519	1	△ 5	90,900	472,300
四 国	46,900	△ 1,100	98	482	0	△ 15	42,700	205,500
九 州	183,200	△ 2,300	99	495	△ 6	1	139,500	690,900
沖 縄	602	△ 50	92	307	△ 2	6	545	1,670

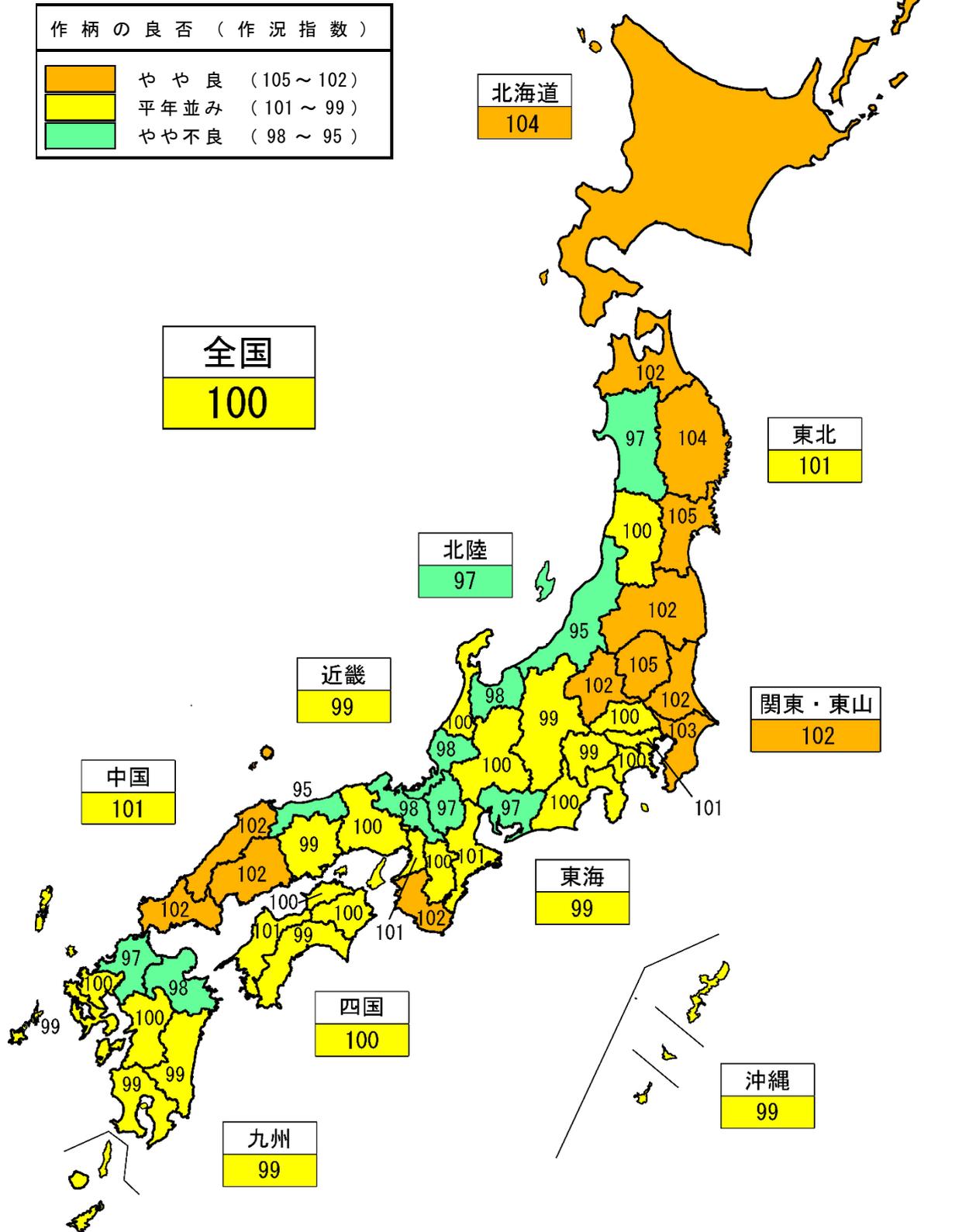
注：1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 予想収穫量(主食用)については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

3 10a当たり予想収量の平年との比較は、10a当たり平年収量との比較である。

4 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数（9月25日現在）  
（農家等が使用しているふるい目幅ベース）



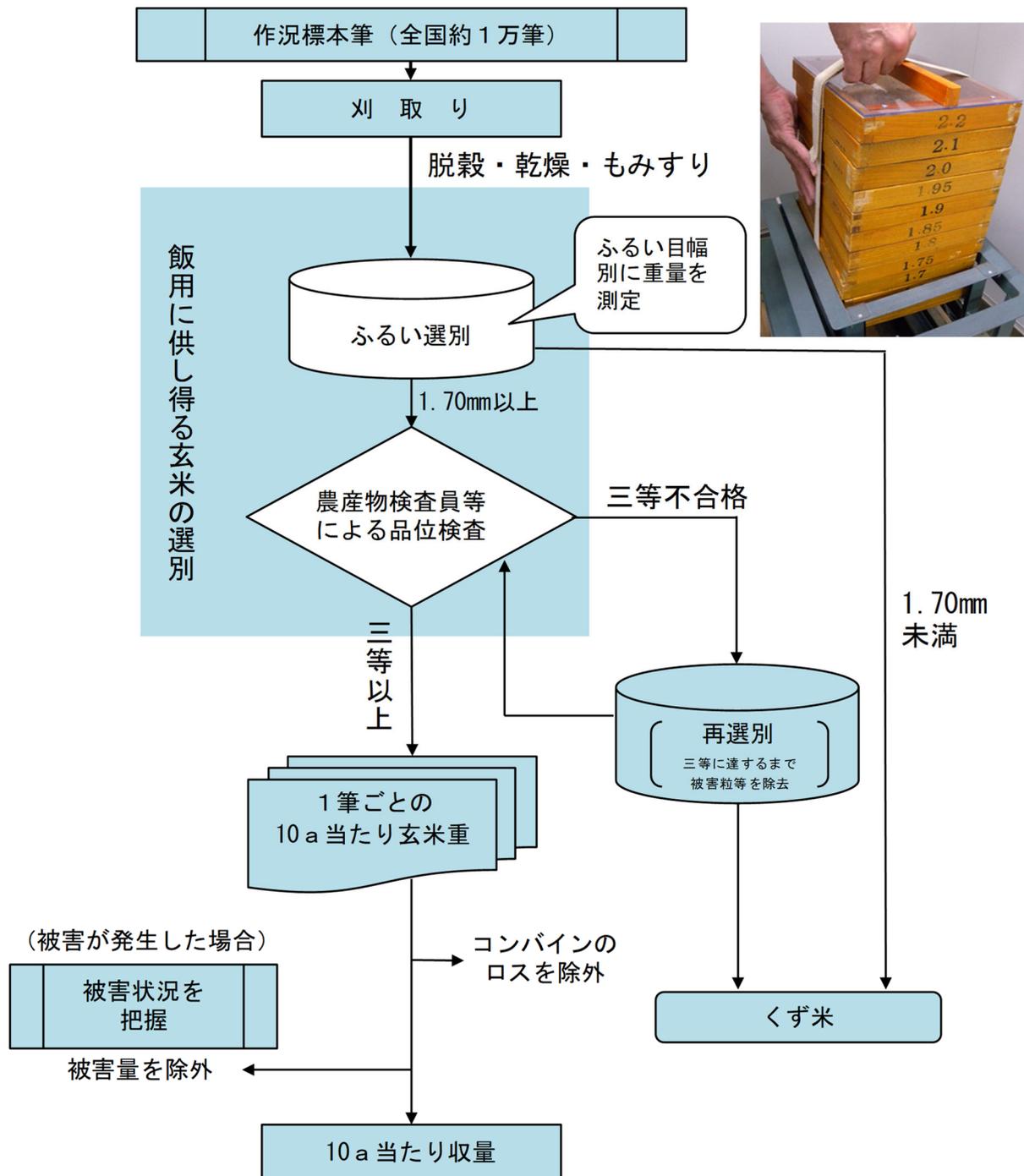
注：1 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出は、第一期稲の10a 当たり収量と第二期稲の10a 当たり平年収量の加重平均を用いた。

【参考 1】

## 収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 2】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。

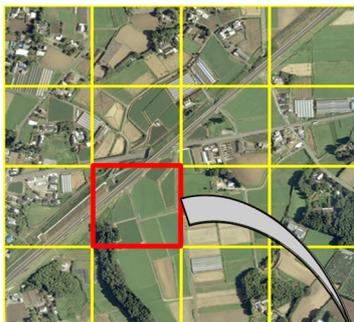


## 【参考2】

### 作況標本筆<sup>ふで</sup>とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）<sup>ふで</sup>は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約1万筆）調査している。

全国の全ての土地  
(母集団)



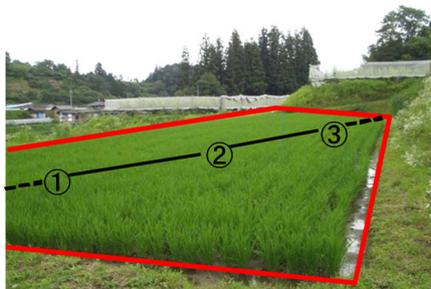
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区  
(200m四方の土地)



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆  
(全国で約1万筆)



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

## 【統計表】

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files/data?sinfid=000040096984&ext=xls>

## 【調査の概要】

### ・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

### ・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/gaiyou/](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/)

## 【水稲調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

## 【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/#y3](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3)

- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和6年2月予定）します。
- ・ 次回（10月25日現在）の公表は、令和5年11月上旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

## 【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

## お問合せ先

### ◎本統計調査結果について

#### ・作付面積に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 面積統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3681

（直通）03-6744-2045

#### ・予想収穫量に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

### ◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 統計広報推進班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037



**政府統計**

政府統計の総合窓口  
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



令和5年11月1日現在で、2023年漁業センサスを実施します。

(流通加工調査については令和6年1月1日現在)